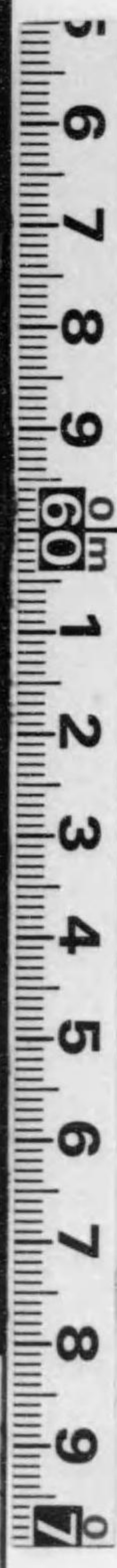


327

986

廣島縣產業概覽



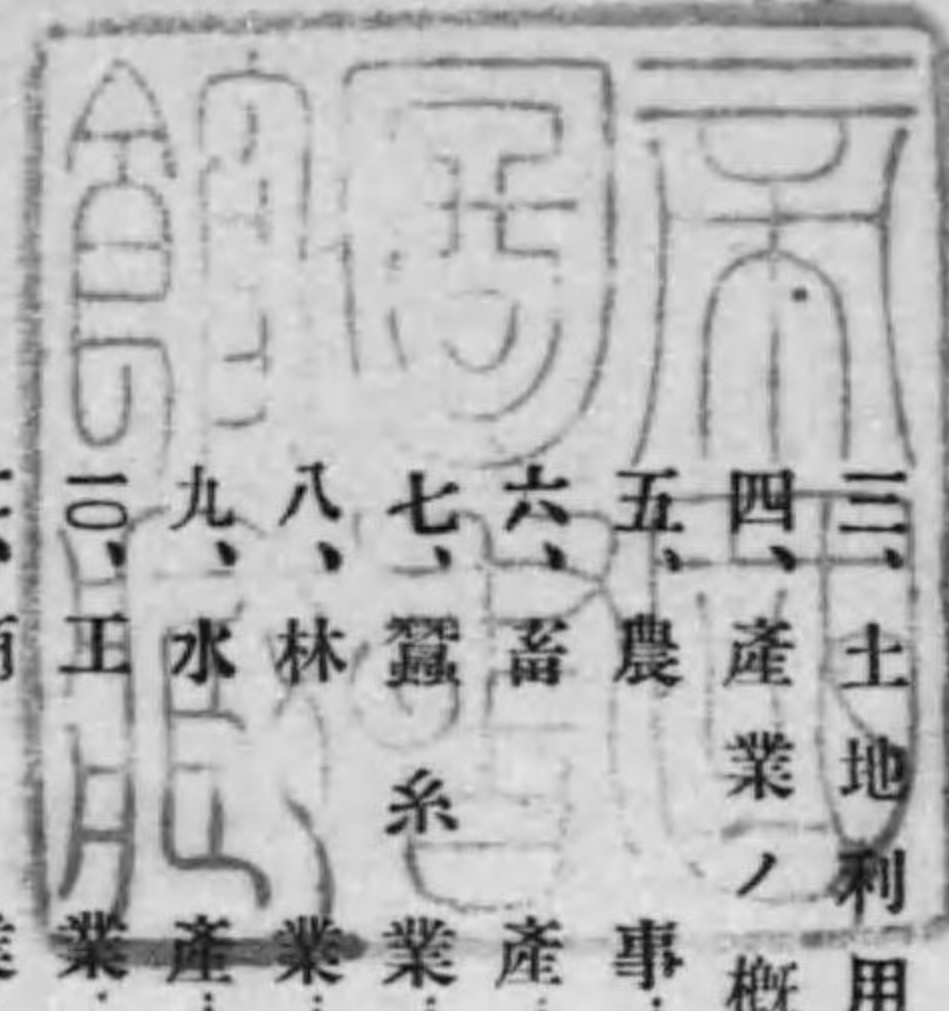
始



廣島縣產業概覽

廣島縣內務部

327-986



目次

一、位 置	一頁
二、地勢及土質	一
三、土地利用ノ狀況	二
四、産業ノ概況	三
五、農 事	六
六、畜 産	七
七、蠶 糸 業	七
八、林 業	八
九、水 産 業	九
一〇、工 業	一〇
二、商 業	一
三、産業組合	四
三、副業品生産額見込調	五
四、時局ノ本縣産業ニ及ホセル影響	九

大正
6. 6. 22
内交

廣島縣產業概要

一、位 置

安藝備後兩國ヲ管スル我廣島縣ハ北緯三十四度二分ヨリ三十五度六分ニ至リ西經百三十二度四分ニ起リ百三十三度二十七分ニ終ル東西凡三十三里南北凡二十九里ニシテ面積五百四十一方里ニ及ヘリ安藝國ハ二市七郡ヨリ成リ備後國ハ二市九郡ヨリ成ル其ノ疆域東ハ岡山縣ノ備中西ハ山口縣ノ周防北ハ鳥取縣ノ伯耆及鳥根縣ノ出雲石見諸國ニ接シ南ハ海ヲ隔テ、愛媛縣ノ伊豫ト相對ス

二、地勢及土質

本縣ハ一般ニ山嶽ニ富ミ平地ニ乏シク林地ノ面積ハ實ニ全縣面積ノ約百分ノ八十五ニ達ス殊ニ北部一帯ノ地ハ隆起シテ山陽山陰兩道ノ分水嶺ヲナシ其ノ支脈蜿蜒トシテ備中備後安藝周防各國境ヲ南走シ幾多ノ峰巒ヲ重疊起伏セシメ終ニ瀬戸内海ニ到テ盡キ更ニ無數ノ群島ヲ星羅棋布シテ伊豫周防ノ諸島ト相交錯ス山嶽ハ特ニ峻嶺ト稱スヘキモノナキモ野路、菊尾、大都智、鷹ノ巢、吳婆々宇、十方及冠等ノ諸山ハ其ノ左ナルモノナリ河川ハ多ク源ヲ北方ニ發シ南流シテ瀬戸内海ニ入ル太田川、蘆田川、黒瀬川ハ其ノ大ナルモノニシテ小瀬川、沼田川、東城川之ニ亞ク獨リ可愛川ハ北流シテ江川ニ合シ日本海ニ注ク島嶼ノ重ナルモノハ能美島、江田島、大崎島、嚴島、蒲刈島、倉橋島、因島、生口島、向島等ナリ地勢山地ニ富メルヲ以テ平地ハ河川ノ流域及沿海地方ニ於テ僅ニ之ヲ見ルノミ

地質ハ花崗岩地最モ多ク石英斑岩地之ニ亞キ秩父古生層ノ如キハ備後ノ東北部及安藝ノ西端ニ於テ稍廣濶ノ地盤ヲ構成セルニ過キス其ノ他ハ玄武岩第三紀層第四紀層ト共ニ花崗岩若ハ石英斑岩地帯内ニ介在



三、土地利用ノ狀況

大正四年ノ統計ニ依レハ本縣ニ於ケル土地利用ノ概況ハ左ノ如シ

(一) 官有地

地目	別	段	別
田	六町	畑	一三町
宅地	一、四	公地	七、八二
社寺	五、三	荒地	一〇〇七
墳墓	三、三	池沼	二、五〇
雜種	三、三	國有林	三、五、六、四
計	三三、三		
	五〇、三、一、一		

(二) 民有地

地目	別	段	別
田	七、五、九、三、三	畑	三、八、三、三
宅地	八、〇〇、七、二	原野	四、七、四、八
山林	四、三、二、四、七、六	雜種	二、六、六、九
山	四、七、〇	池沼	三、八、九
池沼	四、七、〇		
計	五、六、五、二、〇		

四、産業ノ概況

大正四年縣下ノ總生産額ハ八千二百四十万六千圓ニシテ一方里ニ對スル生産力ハ十五万二千三百二十三圓現住戸數一戸ニ對スル生産力ハ二百五十六圓現住人口一人ニ對スル生産力ハ四十九圓ニ當ル今既往五ヶ年間ニ於ケル生産力増加ノ狀況ヲ見ルニ左ノ如シ

(一) 生産總額比較表

産業種類	年次	大正四年	大正三年	大正二年	明治四十五年	明治四十四年
農業		二〇、五、五、〇〇	三五、五、五、〇	四八、〇、四、九	四二、八、三、四	三、五、三、二
畜産		一、四、三、三	一、六、三、三	一、一、三、三	八、三、三	三、〇、〇
蠶業		二、九、七	二、三、九、二	二、四、三、三	二、五、〇、〇	二、二、三、三
工業		四〇、二、三	五、四、七、〇	四、八、七、八	四、八、三、八	四、一、五、三
水産		四、四、五	四、六、三	五、二、九、三	五、一、五、八	四、七、三、三
林業		二、五、八、五	四、〇、三、八	五、五、五、一	五、二、八、九	四、七、三、三
礦業		六、三	三、〇〇	三、〇、九	三、三、三	三、〇、三、三
計		八、二、四、四	一〇、三、三、〇	一一、五、三、九	一〇、三、三、三	九、一、三、三

備考 大正四年ヲ全三年ニ比シ生産力ノ減少セルハ農業ニ於テ米麥價格ノ低落シタルト農商務統計樣式改正ノ結果工業ニ於テ他府縣ニ本店ヲ有スル綿糸紡績産額ノ控除林業ニ於テ製材ヲ工産物ニ移シタル等ニ依ル

(二) 生産増減比較表 (△印ハ減)

種別	大正四年		明治四十四年		數量增△減	價額增△減
	數量	價額	數量	價額		
米酒	一,三七〇,一九四	一六五,八六六	一,四八八,五七二	二,〇〇五,四五四	△	△
清酒	一,五七,一〇四	六,六一,五五三	一,五九,五三三	六,三九,五七七	△	△
麥酒	七九,五五三	四,八〇,四七三	七五,八〇〇	五,九五,二六七	△	△
織物	?	三,八一,五五八	?	四,三九,一五三	?	△
漁獲	?	二,〇〇,六七〇	?	二,三三,三五六	?	△
醬油	三,七三,五三三	一,五〇,八三〇	三,七七,〇〇〇	一,三〇,〇三三	△	△
鹽	一三,一九九	一,五〇,八三〇	一〇〇,八〇〇	一,三〇,〇三三	△	△
蠶絲	八,二五,三三三	一,五〇,八三〇	八,三七,二九九	一,四八,八九三	△	△
菓子	三,九六,七〇〇	一,三三,三三三	三,〇〇,〇〇〇	一,四八,八九三	△	△
菓實	三,九六,七〇〇	一,三三,三三三	三,〇〇,〇〇〇	一,四八,八九三	△	△
甘藷	三,九六,七〇〇	一,三三,三三三	三,〇〇,〇〇〇	一,四八,八九三	△	△
菓實	三,九六,七〇〇	一,三三,三三三	三,〇〇,〇〇〇	一,四八,八九三	△	△
食糧	八九,六三〇	九,九三,八〇八	九六,四四四	九,四九,七五八	△	△
水産製造物	?	九七,六一六	?	一,五七,〇〇九	?	△
和紙	?	九七,六一六	?	一,五七,〇〇九	?	△
金屬製品	?	九六,〇四三	?	一,〇五,一〇一	?	△
木履	一五,八〇,六八七	九三,〇四八	一〇,四七九	六,四七,二九九	△	△
漁網	四,大九,六〇三	七,七,〇七九	一,七,六三三	八,七,一〇三	△	△
丸及角材	三,八,八三三	七,七〇,四二八	三,九,五八七	一,二四,六四六	△	△

五

今試ミニ一ヶ年生産額五十万圓以上ノ生産物及其ノ産額ヲ五年前ニ比較シテ表示スレハ左ノ如シ

種別	増減歩合	大正四年ヲ明治四十四年ニ比シ増△減	同	増減△歩合
一方里	△	三三,七〇六	同	△
一戸	△	七七,七五	同	△
一人	△	四九,七	同	△

(四) 一方里及一戸當一人當生産比較表

年次	一方里ニ對スル生産力	現住戸數一月ニ對スル生産力	現住人口一人ニ對スル生産力
大正四年	一五,三三三	二,九四六	五〇,一四
大正三年	一九,〇八一	三,〇〇,九	六,〇五
大正二年	二六,九八三	三,四一,八七	六,七三
明治四十四年	一七,七〇七	二,九四六	五〇,一四

(三) 一方里及一戸當一人當生産力比較表

産業種類	増減歩合		産業種類	増減歩合	
	大正四年ヲ明治四十四年ニ比シ増△減	同増△減歩合		大正四年ヲ明治四十四年ニ比シ増△減	同増△減歩合
農業	△	四八,二	農業	△	二〇,六
畜産	△	一,〇三三	畜産	△	三,〇三六
蠶業	△	一,〇三三	蠶業	△	五,三九
工業	△	一,三〇九	工業	△	〇,八七
林業	△	一,六八八	林業	△	三,〇三六
水産	△	一,三〇九	水産	△	二,〇〇
計	△	三,一五	計	△	七,八五五

四

本縣蠶糸業ノ概況ヲ見ルニ桑園段別二千九百十町歩養蠶戶數一万五千九百戶蠶種掃立枚數三万三千二百枚收繭額二万八千九百九十石蠶種製造高ハ特別蠶種四百二十九万四千蛾普通蠶種三百枚生糸製造額一万千七十貫ニシテ桑園一段歩ニ對スル收繭平均九斗九升六合掃立枚數一枚ニ對スル收繭平均八斗七升三合養蠶戶數一戸ニ對スル收繭平均一石八斗二升三合ナリ而シテ最近數年間毎年四五千石ノ收繭ヲ増加スルモ畑總段別ニ對スル桑園段別ノ歩合僅カニ八分一厘ニシテ農家戶數ニ對スル養蠶戶數ハ七分八厘ニ過キス之ヲ他縣ニ比スレハ尙甚タ幼稚ノ狀態ニアルモ農家戶數耕地面積及氣候風土ノ關係ヨリ考フレハ將來尙大ニ發展ノ餘地アルヘキコト明ナリ之カ振興ノ方法トシテ現ニ縣ノ施設獎勵シツ、アル重ナル事項左ノ如シ

- (一) 技術員設置
- (二) 農事(主トシテ蠶業)講習所
- (三) 原蠶種製造所
- (四) 種繭審査會
- (五) 蠶業取締所
- (六) 桑園ノ改良増殖補助
- (七) 稚蠶共同飼育費補助
- (八) 蠶病消毒費補助

八、林業

本縣ハ山地ニ富ミ林野面積ノ廣大ナル本邦稀有ノ一ニ屬シ臺帳面積約五十万一千町歩其ノ實測推定七十七万三千町歩ニ及ヒ全管總地積ノ約八割五歩ヲ掩有シ田地面積ノ九倍畑地面積ノ十九倍餘ニ該當ス而シ

テ本縣林野面積ノ七割四分五厘ハ即チ約五十三万八千町歩ハ樹林地ニ屬スト雖モ殘餘ノ二割五分五厘即チ約十八万五千町歩ハ無立木地ニ屬シ此内裸禿崩壞見込地約七千五百町歩ヲ存ス次ニ山野施業利用ノ狀勢ヲ見ルニ本縣民有林ノ多クハ今尙依然舊態ヲ墨守シ殊ニ公有林野ノ如キハ積年濫伐ノ結果地方ノ衰退最モ甚シク殊ニ入會ノ慣行ヲ有スル地方ニ至リテハ荒廢殆ント其ノ極ニ達シ地盤ノ崩壞土砂流出ノ被害ヲ見ルモノ亦尠シトセス如斯廣大ナル本縣ノ林野ハ從來ノ施業利用一般ニ粗放幼稚ノ境ヲ脱スルコト能ハス其ノ大部伐採後概チ天然ノ儘ニ放任セラレ林利ノ増進並生産増加ノ餘地殊ニ多ク生産上ハ勿論治水並國土保安ノ關係ヨリ云フモ本縣林業ノ將來ハ頗ル多事多望ナリト謂ハサルヘカラス今縣ニ於テ施設シツ、アル事業ノ主ナルモノヲ擧クレハ左ノ如シ

- (一) 技術員設置
- (二) 公有林野造林獎勵
- (三) 荒廢地復舊費補助
- (四) 部落有林野統一獎勵
- (五) 林野整理
- (六) 地方森林會
- (七) 縣有模範林造成
- (八) 廣島縣山林會補助

九、水産

本縣ノ沿海ハ四市七郡ニ涉リ海岸線延長二百四十六里漁民戶數一万三千七百戶人員二万八千九百人ニシテ漁獲高二百五万千圓製造高九十七万六千圓養殖高二十三万千圓製鹽九十九万四千圓遠洋漁獲高四十六

万八千圓總計四百七十二萬圓ニ達ス即チ漁民一戸生産高三百四十四圓ヲ算ス由來本縣ノ漁業ハ殆ト集約的經營ノ極ニ達セルヲ以テ此ノ狹隘ナル海面ト密度ノ大ナル本縣水産業ノ施設トシテハ内漁場ノ整理漁船ノ改造製品ノ改良養殖業ノ普及竝ニ漁村ノ改善ヲ期シ外朝鮮海關東洲其ノ他ノ遠洋ニ向テ出漁ノ發展ヲ企劃スルノ外アルヘカラス今左ニ主タル施設ノ概要ヲ記スヘシ

- (一) 技術員設置
- (二) 遠洋出漁獎勵
- (三) 朝鮮海通漁組合費補助
- (四) 水產會費補助

一〇、工業

本縣ノ工業物ハ四千二十一萬三千圓ヲ算シ其ノ製造ノ多クハ家内の手工業ナリシモ輓近時勢ノ進運ニ伴ヒ機械工業漸ヲ以テ發達シ現ニ十人以上ノ職工ヲ有スル工場ハ二百八十四戸ニ上レリ而シテ縣下ニ於ケル主要工業物ヲ舉クレハ清酒六百二十六萬二千圓織物三百八十七萬二千圓刻煙草二百八萬九千圓醬油百六十七萬五千圓蠟燭五百五十六萬六千圓罐詰百三十五萬圓菓子百十三萬圓和紙九十七萬三千圓金屬製品九十六萬圓木履九十三萬圓漁網地七十七萬圓製煉(鑛產物)六十二萬四千圓船舶五十四萬二千圓等ニシテ今回歐洲戰亂ノ結果本縣ノ工業ニ及ホセル打擊ノ最モ大ナルモノハ真田類ニシテ其ノ他原料品輸入杜絶ノ爲メ事業不振ニ陥リタルモノアルモ多クハ一地方ニ局限セラレ從テ其ノ關係大ナラス今縣ニ於テ工業ノ爲メ施設セル主ナル事業ヲ舉クレハ左ノ如シ

- (一) 縣立工業試驗場及分場
- (二) 釀造改良 (技術員設置)

- (三) 罐詰検査所
- (四) 實業獎勵 (産業ノ實地指導ニ要スル諸費)
- (五) 真田同業組合補助

一一、商業

本縣ハ海陸ノ交通至便ニシテ縣内ニハ廣島、吳、尾道、福山ノ四市ヲ始メ三次、三原其他小市街地多ク輓近工業ノ發達ト交通機關ノ進歩トニ伴ヒ商業取引ノ如キモ亦逐次發展ノ氣運ニ向ヒツ、アルモノ、如シ大正四年末ノ現在ニ依レハ商業各種會社ノ總數四百五十九其ノ資本金總額三千四百七十五萬圓銀行數五十一其ノ資本金千四百三十四萬六千圓ニ達ス縣下ノ金融狀態ヲ見ルニ大正四年末統計ニ依レハ銀行預金二千八百六十六萬圓郵便貯金六千六百八十三萬三千圓產業組合貯金百六十五萬四千圓合計九千六百六十四萬八千圓ニ上リ銀行貸出金三千八百八十八萬四千圓質屋貸出金六十三萬四千圓產業組合貸出金二百六十六萬四千圓合計三千三百六十八萬二千圓ヲ算ス今既往五ヶ年ノ概況ヲ舉クレハ左ノ如シ

(一) 會社數及其ノ資本金額表

年次	會社數	資本金總額
明治四十四年	三四三	二七、三〇、九四五
大正元年	三六九	三四、三六、六九五
全大正二年	四二二	三四、六三、〇九四
全大正三年	四四四	三、八一、九三〇
全大正四年	四五九	三四、七〇、八〇四

(二) 銀行數及其資本金表

年次	銀行數	資本金總額
明治四十四年	五七	10,483,335
大正元年	五九	13,156,735
全二三年	五五	14,171,335
全三四年	五三	14,111,335
全四五年	五二	14,346,335

(三) 各種預金表

年次	銀行預金	郵便貯金	産業組合貯金	合計
明治四十四年	3,646,577	4,856,000	852,874	38,355,451
大正元年	3,525,996	5,082,000	1,245,429	41,443,855
全二三年	3,542,696	5,202,000	1,433,634	38,338,330
全三四年	3,049,357	5,433,855	1,449,344	37,332,554
全四五年	2,600,932	6,643,388	1,644,423	36,498,673

(四) 各種貸出金表

年次	銀行貸出金	質屋貸出金	産業組合貸出金	合計
明治四十四年	3,150,105	650,559	899,044	2,699,708

年次	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年
銀行貸出金	3,150,105	3,013,792	3,060,993	2,903,105
質屋貸出金	777,790	610,666	611,019	644,037
産業組合貸出金	1,333,820	1,723,520	1,914,410	2,164,150
合計	5,261,715	5,348,378	5,586,422	5,611,292

(五) 金利率表

年次	百圓ニ對スル銀行日歩		拾圓ニ對スル質屋月利		百圓ニ對スル産業組合日歩	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低
明治四十四年	三三	三三	三三	三三	三三	三三
大正元年	三三	三三	三三	三三	三三	三三
全二三年	三三	三三	三三	三三	三三	三三
全三四年	三三	三三	三三	三三	三三	三三
全四五年	三三	三三	三三	三三	三三	三三

更ニ輸出入ノ狀況ヲ見ルニ本縣製品ニシテ外國へ輸出スルモノハ麥稈經木真田、花苳、罐詰、燐寸、刷子等ニシテ皆横濱神戸等商人ノ手ヲ經由シ直接輸出スルモノ殆トナシ移出品ノ主ナルモノハ紡績綿糸、米、棉、織物、酒、罐詰、麥等ニシテ移入品ノ主ナルモノハ米、紡績綿糸、絹綿織物、毛織物等ナリ商業發達ノ爲メニ民間ニ於テ施設シツ、アルハ主要物産同業組合ニシテ其ノ現在數二十三ヲ有シ商業會議所、廣島尾道兩市ニ在リ其他福山、三原、竹原等ノ如キ商業地ニ在リテハ商工會ト稱スル任意團體ヲ設ケ商工業ノ進歩ヲ助ケ居レリ縣ニ於テハ物産陳列館ヲ設ケ生産品ノ紹介及其ノ販路擴張ニ努メツ、アリ

種	類	生産	高	金	種	類	生産	高	金
干魚	魚具及船具	五七、二四斤		四、二九九円	牡蠣	計	三、四〇、〇六斤		二七、〇六七円
網	魚類			三、七五二	鮎	計	二〇、〇六斤		四、三三五
渡海	苔類			四二、三五八					五〇六、二四八
				八、八四二					

林産品

種	類	生産	高	金	種	類	生産	高	金
木炭	炭	四、三六五、四三五斤		二〇、六一円	備酸石	計	八、〇〇〇		八、〇〇〇
五倍子	茸	四、三三七斤		一、〇〇一	炭	計	〇〇〇		二九〇
菌	茸	二元、三三九		三、五九九	コウ	計	三、〇〇〇		九〇〇
松脂	脂	一〇、九三三		二、八六三	薪	計	七、〇〇〇		一〇、五〇〇
檜皮	繩	六、一〇〇		五、五五〇	漆	計	一、四七四		二七〇〇
樹皮	繩	四、四三七		二、四八八	白漆	計	三斤		三
松木	繩	三〇、五七七		五、一四四	漆	計	六、五、三三〇		三九、七〇〇
砥石	石	五、三三〇		一、三三	下駄	計	一三、七〇〇		九八〇
鐵石	石	一		三、七九	齒	計	一		五、〇〇〇
砂	鐵	九八、〇〇〇		七、〇一五					六、六、三三一

畜産品

種	類	生産	高	金	種	類	生産	高	金
バタ	計	一〇、二、一〇五箇		三、七五五	家禽(雞)	計	一〇、六、八九九		四、八二一
ミカ	計	一、七、〇〇〇		五、五〇〇	鷄	計	一三、一、三〇九二箇		三、七四三
産馬	計	一七、六九七頭		一、二五、四四五	卵	計	一		三、四〇、二二
産牛	計	六四一		六、四一〇					五、六〇、二二
合計				一八、四八八、〇六					

一四、時局ノ本縣産業ニ及ホセル影響

歐洲戰亂以來本縣産業界ニ及ホセル影響ハ之ヲ大別シテ (一)輸出品ノ増進 (二)輸入代用品ノ増進 (三)輸入原料缺乏ニ依ル生産ノ減少ノ三種ニ區別スルヲ得ヘシ而シテ其ノ影響ノ最モ大ナルハ工業ニシテ蠶糸業及普通農事等之ニ亞ク今各種産業ノ狀況ヲ略叙スレハ左ノ如シ

一、工業

(一)帆布 産地尾道市

本縣ニ於ケル帆布ハ主トシテ内地ノ需要ニ供シツ、アリシモ近時製造方法ノ改善ト設備ノ完備トニ伴ヒ米利堅模造品ヲ製織スルニ至リ本邦貿易商人ノ手ヲ經テ歐米諸國ヘ輸出シツ、アリシカ歐洲戰亂勃發以來特ニ軍需品トシテ使用セラル、結果輸出噸ニ激増シ晝夜之カ製織ニ従事スルモ其需要ヲ充ス能ハサル盛況ヲ呈スルニ至レリ殊ニ近時ニ於テハ露國ニ輸出スルモノ頗ル巨額ニ達ス今最近四ケ年間ニ於ケル生産物ヲ示セハ左ノ如シ

種別	年次		種別	年次		對大正二年 大正五年	增減
	大正二年	大正三年		大正四年	大正五年		
針	九一、五九貫	四〇、六〇貫	三、八三、〇〇貫	七九、一四貫	對大正二年 大正五年	增 六七、五二貫	減
產地安佐郡三篠町	三七、九六圓	八四、九七圓	九七、二六圓	二、一四、〇八圓	對大正二年 大正五年	增 一、七三、三六圓	減

(二)針 產地安佐郡三篠町
近時製法ノ改善ニヨリ舶來品ヲ凌駕スル優良品ヲ産スルニ至リ殊ニ歐洲戰亂以來交戰國ヨリノ輸入杜絶シタル結果海外殊ニ支那米國等へ輸出スル額激増スルニ至レリ今最近四ヶ年間ノ生産額ヲ掲ク
レハ左ノ如シ

種別	年次		種別	年次		對大正二年 大正五年	增減
	大正二年	大正三年		大正四年	大正五年		
玩具	四、六五、〇〇圓	五、四三、〇〇圓	六、八六、〇〇圓	六、五五、〇〇圓	對大正二年 大正五年	增 一、九〇、〇〇圓	減
產地佐伯郡廿日市町嚴島町	九、〇〇圓	一〇八、一五圓	三三、三六圓	九六、六三圓	對大正二年 大正五年	增 八七、六三圓	減

(三)玩具 產地佐伯郡廿日市町嚴島町
從來多少ノ輸出ヲ爲シツ、アリシモ時局勃發以來獨逸ヨリノ輸出杜絶シタル結果茶器、飲食器人形動物類等ノ木製玩具米國及印度方面へ盛ニ輸出セラル、ニ至レリ今最近四ヶ年ニ於ケル生産額ヲ示セハ左ノ如シ

種別	年次		種別	年次		對大正二年 大正五年	增減
	大正二年	大正三年		大正四年	大正五年		
萬年ペン	一四〇、八五圓	二二、三九圓	三三、三六圓	三、二〇圓	對大正二年 大正五年	增 一七、一五圓	減
產地吳市	?	?	二五、三〇圓	二、一〇圓	對大正二年 大正五年	增 二四、二〇圓	減

(四)萬年ペン 產地吳市
大正元年頃ヨリ製造ヲ創メ其後苦心研究ノ結果漸ク舶來品ニ匹敵スヘキ製品ヲ得ルニ至リ今ヤ舶來品トシテ國內ノ市場ニ販賣セラル、ニ至レリ今最近四ヶ年ニ於ケル生産額ヲ示セハ左ノ如シ

種別	年次		種別	年次		對大正二年 大正五年	增減
	大正二年	大正三年		大正四年	大正五年		
護膜製品	?	?	二五、三〇圓	二、一〇圓	對大正二年 大正五年	增 二四、二〇圓	減
產地廣島市	?	?	一一、五〇圓	一五、一〇圓	對大正二年 大正五年	全 一五、一〇圓	減

(五)護膜製品 產地廣島市
歐洲戰亂勃發以來歐洲ヨリノ輸入杜絶シタル結果之レカ代用品トシテ使用セラル、コト多キノミナラス露國支那米國等へ輸出セラル、ニ至リ爲ニ其ノ産額漸次増加シツ、アリ而シテ之レカ製品ノ主ナルモノハ自轉車タイヤ靴裏護膜、護膜球、雪駄裏等トス今最近二ヶ年ニ於ケル生産額ヲ示セハ左ノ如シ

種別	年次		種別	年次		對大正四年 大正五年	增減
	大正四年	大正五年		大正四年	大正五年		
紙	五〇〇、〇〇〇圓	六九、七〇〇圓	二七、八〇圓	三、七〇圓	對大正四年 大正五年	增 二六、一〇圓	減
製紙	一一、〇〇〇圓	三、七〇圓	三、七〇圓	八、八〇圓	對大正四年 大正五年	增 二六、一〇圓	減

(六)製紙
歐洲戰亂以來西洋紙輸入杜絶ノ結果和紙ヲ代用スルニ至リシト一面西洋紙ノ輸出ヲ見ルニ至リシトニ依リ何レモ其産額増加セリ今最近四ヶ年ニ於ケル生産額ヲ示セハ左ノ如シ

種別	年次	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	對大正二年 大正三年	增減
和紙	數量	七六、八四圓	八〇、七七圓	九五、一四圓	一一七、五七圓		增 四〇、七三圓
	價額	六、二五圓	九、九〇圓	三三、七〇圓	五五、一〇圓		全 三三、八五圓
西洋紙	數量						
	價額						

(七)紡績 產地廣島市福山市佐伯郡能美島

歐洲戰亂以來輸入杜絶ノ結果内地ノ需要増加ト支那地方ヘノ輸出多キニ至リ爲ニ其ノ産額ヲ増加セリ今最近四ヶ年ニ於ケル生産額ヲ示セハ左ノ如シ

種別	年次	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	對大正二年 大正五年	增減
麥稈	數量	三、三六、六三貫	三、五九、九四貫	三、七〇、一四貫	四、〇三、四七貫		增 四三、七三貫
	價額	九〇六、七七圓	八、八九、八〇圓	八、四三、五〇圓	一〇、三〇、六三圓		全 一、〇三、九五圓

(八)麥稈及經木眞田

需用地ニ於ケル嗜好變化シタル爲メ年々輸出額減少ノ趨勢アリシニ加ヘ歐洲戰亂ノ影響ヲ被リ一時輸出杜絶ノ状態ニ陥リ其ノ産額激減シタルモ大正五年以來漸ク挽回ノ傾向ヲ呈スルニ至リシカ如キモ尙不振ノ狀況ナリ今最近四ヶ年ニ於ケル産額ヲ示セハ左ノ如シ

種別	年次	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	對大正二年 大正五年	增減
麥稈	數量	三、一九、六五反	一、五〇、五三反	一、二八、四八反	二、四八、八八反		減 七三、三七反
	價額	五八、四三圓	二〇、四〇圓	一六、二四圓	二七、二八圓		全 二五、一五圓
經木	數量	三、七五、九八反	八三、五三反	四三、九二反	八四、八三反		全 二、九三、〇六反
	價額	二七、四、五六圓	五、四、四七圓	一八、〇五圓	三、〇、〇〇圓		全 二八、五六圓

(九)軍需品

本品ハ賀茂郡寺西村佐竹工場カ大正五年一月以來大阪砲兵工廠トノ契約ニ依リ軍需品ノ請負ヲ爲シ職工八拾人ヲ晝夜交代ニテ使役シ製造ニ従事スルモノニシテ其ノ産額莫大ナリ

(十)鉄 產地比婆郡山縣郡
時局ノ影響ヲ受ケ海外及國內ニ於ケル需要頓ニ増加シタル結果從來ノ製鉄業者ハ其ノ規模ヲ擴張シ或ハ會社組織等ニ變更シタル爲メ著シク其産額ヲ増加スルニ至レリ今最近四ヶ年ニ於ケル生産額ヲ示セハ左ノ如シ

種別	年次	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	對大正二年 大正五年	增減
鐵	數量	一一、六六貫	二二、七八貫	五七、〇三貫	八〇、八五貫		增 六九、一九貫
	價額	一、〇、〇〇圓	四、七、三〇圓	七、三、三〇圓	一、六、七、五〇圓		全 一、四、三、四六圓

(十一)金屬製煉 種類 銅、亞鉛 產地廣島市比婆山縣豐田郡

從來本縣ニ於ケル製煉業ハ極メテ不振加フルニ時局勃發以來諸金屬ノ輸入杜絶シ價額亦暴騰スルニ至レリ爰ニ於テ漸ク製煉業勃興産額稍々増加スルニ至ル今最近四ヶ年ニ於ケル産額ヲ示セハ左ノ如シ

種別	年次	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	對大正二年 大正五年	增減
金屬製煉	數量	三、五九、五三貫	四九、七五貫	七六、七〇貫	九九、七五貫		增 六四、二三貫
	價額	三九、三三圓	二二、三、五七圓	三二、四、五〇圓	一、三、三、元一圓		全 六二、七九圓

(十二)製藥 主產地沼隈郡松永町

時局勃發以來歐洲ヨリ化學及醫藥品ノ輸入杜絶シタル結果價格頓ニ暴騰シ食鹽及食鹽製造殘滓ヲ原

料トスル製藥業勃興シ殊ニ大正四年度ヨリハ從來製造セル炭酸苔土燬性苔土硫酸苔土炭酸曹達ノ外臭素、臭化加里及鹽化加里等ノ製造増加ヲ見ルニ至レリ今最近四ケ年間ニ於ケル生産額ヲ示セハ左ノ如シ

種別	年次	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	對大正二年 大正五年 增減
價額		三、八七〇圓	一、九七六圓	三、九七五圓	六、四三三圓	對大正二年 增 二、五六三圓

(三)染料 產地蘆品郡府中町

歐洲戰亂勃發以來獨逸國ヨリアニリン染料輸入杜絶ノ結果著シク價格ノ暴騰ヲ來シタル爲メ織物製造上多大ノ打撃ヲ受ケタリシモ大正四年十一月頃ヨリ染料製造事業勃興スルニ至リ大正五年ニ於テハ著シク其製造額ヲ増加シ今ヤ内地ノ需要ヲ充スノミナラス進シテ露國ニ輸出ヲ企劃セントスルニ至レリ最近二ケ年ニ於ケル生産額ヲ示セハ左ノ如シ

種別	年次	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	對大正二年 大正五年 增減
價額		一〇〇,〇〇〇圓	一〇〇,〇〇〇圓	一〇〇,〇〇〇圓	一〇〇,〇〇〇圓	增 五五,〇〇〇圓
數量		100,000斤	100,000斤	100,000斤	100,000斤	增 五五,〇〇〇斤

一、蠶絲業

本縣ニ於ケル蠶絲業ハ頗ル幼稚ニシテ收繭額ノ如キ微々タルモノナリシカ歐洲戰亂以後一時惡影響ヲ受ケタルニ近時著シキ發展ヲ爲シ大正五年ニ於ケル蠶業ヲ見ルニ桑園反別二千九百餘町歩養蠶戶數一萬五千九百戶收繭高四萬二千六十石價額二百二十四千圓ニシテ之ヲ大正四年ニ比較スルニ桑園反別八百八十四町歩養蠶戶數六千五百八十餘戶收繭高一萬八千三百五十餘石價額百四萬六千三百圓ヲ増加

セリ今日ノ狀勢ヲ以テスレハ尙益々發展大正十年ニ至ラハ十萬石ノ收繭ヲ豫期セリ然レモ突飛ノ發展ハ一朝價額暴落等ニ遭遇センカ亦タ意氣頓ニ挫折スルノ憂アルヲ以テ注意警戒只管健實ナル發達ヲ期シ居レリ今既往四ケ年ノ産額ヲ舉クレハ左ノ如シ

種別	年次	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	對大正二年 大正五年 比較
桑園反別		二,〇五丁	二,一五〇丁	二,四六〇丁	二,九〇丁	增 八八四丁
養蠶戶數		一,五二六戶	一,九一五戶	二,一六三戶	二,七九〇戶	全 八,四六四戶
繭產額		一三,九一石	一五,五三石	二八,九八石	三三,三六石	全 一八,五三石
繭價額		一〇,七七圓	一〇,八八圓	九,五七圓	二,二〇三圓	全 一〇,一六圓
生糸價額		一〇,七七圓	六,八二圓	二,一七圓	??	全 三,一六圓

備考
一、養蠶戶數ハ春夏秋冬飼育總戶數ヲ記載ス
一、生糸産額ハ生糸及玉糸ヲ記載シ屑物ヲ加算セス尙大正五年度ノ産額ハ調査未済ニテ不明ニ付對照欄ニハ大正二年ニ對シ大正四
年ヲ記載ス

三、普通農業

(一)除虫菊 主產地豐田御調沼隈深安ノ沿海町村

本縣ニ於ケル除虫菊ハ明治三十五年頃東京日本農園及紀州備中地方等ヨリ種子ヲ購入シ之レカ栽培ヲ創メタルヲ嚆矢トス其後明治四十二年頃迄ハ其ノ需要少カリシ爲産額ニ著シキ増加ヲ見サリシカ歐洲戰亂勃發以來價格高騰需要激増從テ栽培反別増加シ實ニ大正五年ニ於ケル栽培反別ハ千二百町歩以上ニ達シ其數量一二八、九〇〇貫其ノ金額ハ三十九萬圓ノ多キニ達シタリ今既往四ケ年ノ産額ヲ舉クレハ左ノ如シ

種別	年次					對大正二年比較
	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	大正五年	
作付反別	一三、九反	一九、九反	三六、〇反	一、〇九四反	增一、〇七、五反	
數量	三、八六貫	四、五九三貫	八、九六〇貫	二八、九〇貫	全三、〇八四貫	
價額	八六、九三圓	九三、五六圓	二六、一〇三圓	三六、七〇圓	全二九、六六圓	

(二) 肥料

歐洲戰亂以來肥料ノ供給順調ヲ缺キ且ツ市價ノ騰貴シタルト米價下落ノ爲農家ノ肥料購買力減退シタル爲メ販賣肥料ノ消費額減少シタルモ自給肥料ノ普及獎勵ニ努メタル結果著シク其ノ消費額ヲ増加シタリ今既往三ヶ年ノ消費額ヲ示セハ左ノ如シ

種別	年次					對大正二年	增減
	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	大正五年		
販賣肥料	二〇、三三、三六貫	一九、九七、二六貫	一〇、七五、五四貫	四、九六貫	減六、八四、三九貫		
自給肥料	三、四九、六八圓	三、七五、〇九圓	三、七六、二〇貫	四、五〇、四四圓	增一、〇一、〇六圓		
合計	二三、八三、〇四圓	二三、七二、三五圓	一四、五一、七四圓	九、四六、九八圓	減一二、八六、〇三圓		

備考

- 一、販賣肥料中大正二年ニ對シ大正五年ノ減少シタルモノ、主ナルモノハ魚肥類、骨粉、大豆粕、醸造粕類硫酸安母尼亞、智利硝石、石灰窒素調合肥料、石灰製糖廢物等トス
- 一、自給肥料ノ數量増加シタルニ拘ハラズ價額減少セルハ單價ノ下落シタルニ依ル

四、林業

(一) 松脂

テレヒン油及チャン製造ノ原料タル松脂ハ從來雙二比婆ノ兩郡ニ於テ採取セシカ時局ノ影響ヲ受ケ

著シク之カ採取ヲ増加スルニ至レリ即チ大正二年ノ産額僅ニ四百五十一圓ニ過キサリシモ大正四年ニ於テハ六千餘圓ノ多キニ達セリ本縣ニ於テハ夙ニ斯業ノ有望ナルコトヲ認メ之カ採取上指導獎勵ヲ爲シツ、アリ

(二) 阿部槇樹皮

本縣ノ特産物タル阿部槇樹皮ハ從來三拾萬貫内外ノ産額ニ過サリシカ時局勃發以來外國産コルク輸入杜絶シタルト工業用途ノ擴張シタル爲著シク其需要額ヲ増加シタルノミナラス露國及支那ニ於ケル冷蔵庫製造事業開設ノ影響ヲ被リ薄皮ニ至ル迄之ヲ利用シ得ルニ至リタル結果昨年夏期以來至ル處盛ニ剥皮ヲ行ヒ廣島市ニ集中シタル量無慮百五六十萬貫(石州及雲州ヨリ五六十萬貫移入)ニ達シ内本縣ニ於テ剥皮セルモノ殆ト百萬圓ニ垂々トスル狀況ニシテ濫採ノ弊ヲ認メツ、アリ斯ル狀況ナルヲ以テ其濫採ヲ防止シ且ツ之カ保護育成ニ努メシメ最モ有望ナルニ番皮ノ生産ヲ計リツ、アリ

大正六年六月十六日印刷
大正六年六月十八日發行

廣島縣內務部

印刷者 久保原淳二
廣島市十日市町二十五番地

印刷所 久保原印刷所
廣島市十日市町二十五番地

電話一三〇五番

327
986

終

